保育者の新しいノート (4)

S. K. 生

(1)

○或る兒童研究者の調査の報告によると，この頃の子どもの遊びには驚かされる。時代を反映し，環境にならうといえばそれまでだが，その時代，環境を幼兒の遊びから見せつけられて寒心に，今更たえないのである。やみやどつこ，おいはぎどつこ，それに，最近では，デモどつこもあろうというもの。

○子ども，殊に幼兒達は，格別深い興味をもつてしているのではなく，そのほんとうの意味なんか分つていないだろう。それだからといつて，子どもの無邪氣さを笑つて見過せないのは勿論，それらの中にある『惡の感じ』とでもいうものは，幼兒たちの心に，決して持たせたくない快感（？）を經驗させずにおかない。恐ろしいことである。

○そこで，そのとめかただが，そんな惡い遊びをするものではありません，など，うつかりいうと，その『惡の感じ』を刺戟して，却つて，惡の興味で，多分かくれてするようになるだろう。といつて，無暗に彈壓してもそれで教育的指導が終つたものではない。

○或る先生に尋ねたら，それは，幼兒の遊びが貧弱だからだ。いい遊び方を澤山教えることが必要だ。それで惡い遊びを追い拂うがいゝと教えて下さつた。ご尤もとは思うが，また，いゝ遊びを教えることはいつでも必要で，わたくしたちも氣をつけているが，時代の强い反映，環境のはげしい影響にはなかなか追いつかない。困つて仕舞う。泣きたくなる。

○もう一人の先生に尋ねたら，それはねえ，その遊びの中の興味を分析して，惡いところを捨て，いゝ方の興味をそのまゝ生かすのがよいと教えられた。むつかしいことだが，それが出來ればいゝと思つて工夫してみた。やみやどつこをしているのを㊙ごつこに指導した。それで賣り買いの興味を充分滿足された。おいはぎごつこを虎狩りに指導してみた。それで追つかけや鬪爭の興味は滿足された。虎になる子も，强いので面白がつていた。デモどつこも，その標語を變えて指導した。それで行進の興味は滿足された。萬事この調子という譯でもないが，——子どものしていることにそんなに面くらわなくてもいゝと思つた。

(2)

○世の中を考えると，憂慮と憤がいにたえぬことだらけ。つい，いらいらして，保育も神經質になり易い。子どもの世界まで その心もちを持ち込んだりする。園長さんがいわれた。幼稚園の門をはいつたら，世の中も忘れなさい。折角きれいな世界へ，折角のどかな世界へ，よけいなものをもつてはいつてはいけない。お寺の門に，お酒氣を帶びて山門に入つてはならぬと書いてある。幼稚園にも興奮して入つて來てはならない。なんなら，入口で，手を洗い，うがいをして，世間とは別の，さつぱりした身にも心にも，きよめられてから入つて來なければならない。少くも幼兒達のきれいな心が——どんな子にもあるきれいな心が，すなおに受けられるように。——そういわれた園長さんは，なるほど，園の外と內とでは全く別人のようだ。